

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900672		
法人名	東光ヘルパーステーション有限公司		
事業所名	グループホーム みのり ユニット1		
所在地	旭川市永山3条18丁目1番5号		
自己評価作成日	平成22年8月	評価結果市町村受理日	平成22年11月5日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900672&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900672&amp;SCD=320</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年10月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

既存の病院をグループホームにしている。居室が2階という環境の中歩行に不安定であった利用者がふらつきなく階段昇降している。  
施設前が国道であり交通の往来が多いことも不安材料である。だが、出来る力や意欲を持ち続けるように見守りや声掛けを行っている。今後も地域活動にも参加して近隣の人達からも暖かく見守られるような施設作りを継続したい。

朝・夕の足浴は、スキンシップの効果や1対1での関わりやコミュニケーションの場もあり、とても信頼関係が保つ機会になっている。不安なことや心配なことなど話せ、安眠効果や、体調の変化なども把握できる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線沿いの交通の利便性に優れた立地条件の中に開設されている2ユニットのグループホームです。また、1階には訪問看護ステーションと2階にはデイサービスが併設されており、地域に密着した取り組みが実践され、毎年継続して開催されている「みのり祭り」では、地元の人々や家族、よさこい等のボランティアが多く参加され認知症への理解や広報の機会として利用されています。朝・夕の足浴では、利用者とのコミュニケーションで希望や要望、その日をどう過ごしたいか聞く場として利用されていたり、健康管理や職員との信頼関係構築に活かされています。また、毎月開催される職員の内部研修では、感染症予防や口腔ケア、ポジショニング等の研修が行われケアサービスの質の向上に取り組んでいます。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の想いを中心に共に生活を築いていく。」を基本理念とし、地域や町内との繋がりを多く持ちながらサービス提供を行っている。	事業所独自の理念をつくりあげ、職員は常に携帯し、共有し、その実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の周囲に神社があり散歩コースで職員と出掛けている。近所の人とも声掛けて挨拶して交流している。	毎年継続して開催されている「みのり祭り」で地元の人々との交流や福祉専門学校等の実習生の受け入れ等地域の人達と日常的な交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所者の介護度や認知状態を運営推進会議において随時お伝えし、地域の人々からの協力を求めている。人材育成の為に実習生の受け入れを継続している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において日々での入所者の様子や新規入所者の紹介をお行い地域や民生委員さんに十分理解を求め。様々な社会資源の紹介を得たりアドバイスを受けてたりしてサービス向上に努める。毎回町内会長さんは参加して下さり施設と町内の橋渡しをしてくれている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催されSOSネットワークや介護保険制度、災害対策や避難誘導について具体的に話し合っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明点や相談等市の関係機関や地域包括支援センターに問い合わせ必要に応じて連携しながら利用者対応している。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が出勤時(8:00)～勤務終了時(18:00)までは、開錠して何時でも出掛けられる。玄関出る際、スイッチで開閉するようになっている。身体拘束については全体会議時に事例をあげて検討して再確認している。	身体拘束廃止、高齢者虐待防止について職員の内部研修を通じて認識の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待関連ニュースや研修会参加時は、朝礼で情報を伝え全体会議に再度情報を伝え共有化を図る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会参加時は、朝礼・全体会議にて情報を伝達する。入所者に関わるがあれば、その都度担当職員と話し合い入所者が満足できるようまた安心できるように努める		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設入所にあたり入居前の見学は勿論のこと面談を重ね自宅まで訪問し確認事項など念密に意見の交換を行い十分納得された上で契約を行っている。疑問点や不明点もないように些細な事でもお問い合わせ頂けるようにお伝えしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見・要望は面会毎にお聞きしてその都度対処し又職員の周知するために申し送りノートや朝礼、全体会議には伝え周知徹底している。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置し、市町村等の相談窓口も掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの思いや意見を管理者へ伝えている。職員の提案は全体会議にて意見交換をして自分の思いを発言し検討している。	全体会議や内部研修を通じて、意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営会議を月1回行い、個々の役割や努力や実績を発表してもらい、状況の把握に努めている。向上心をもって働けるよう研修への参加や、自己啓発の内部研修を行っている。時間には就業できるよう勤務配慮をして仕事以外の時間を大切にできるよう促している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実際を把握するとともに先輩から指導を受ける体制になっているが、研修など積極的に参加するように促している。また研修後の発表や施設内研修も行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭川在宅を育む会、グループホーム協会に入会し、研修を積極的に促している。運営推進会議などで地域包括、民生委員、地域住民の方など情報、交流をすすめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族の心配の解決に向けてまた利用者の不安の軽減のためにも御本人からの声を傾聴する。在宅生活の継続できるように支援する。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの御家族の関わりや支援に対して受け止めて労いをして家族と共にこれからどのようにして関わるかを検討する。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階にて早急やまだ大丈夫かを適切に判断している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る力や出来る事等は時間がかかろうとも見守り満足感や自信を持たすことが意欲に繋がる。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には、面会時には様子をお伝えしたり、地方の御家族には、手紙にて近況を書いて郵送している。また「みのりだより」も発行して様々な行事の様子も添えている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から継続している宗教の集まりや昔から散策している神社等を家族の協力を得ながら行って家族との触れ合いを行っている。	行事担当が立案し、ホーム主催の行事や地域の盆踊り等の行事参加で馴染みの人との交流や戸外に出かけられる機会の支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のコミュニケーションも多く、難聴等でなかなか難しい時は、職員が間に入り対応している。利用者には洗濯たみ・お絞りたみをしながら会話を弾んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後や亡くなった場合や入院等でサービスが終了しても状態確認をし連絡を取っている。(御家族のその後の様子も)		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での会話やしぐさや表情から御本人の思いや意向を汲み取れるように努めて少しでも反映できるように心掛けている。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式を活用し家族や関係機関から情報を収集し生活歴・馴染みの生活を継続できるように支援している。御家族からは些細な事でも情報を伝えて欲しい旨は話している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所がきまり早目に情報を収集して利用者を理解する為に申し送りノートを利用して情報を把握してもらう。在宅生活の延長のように毎日の生活を送れるように情報の共有化をしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や御家族には担当職員が中心となり日々の関わりの中から思いや意見を聞き反映されるようにしている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映している。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、全職員にて行っており、介護計画書も一緒に挟んであり計画に沿って記録している。御本人の気持ちや意見を素直に記録を勧めている。現在取り組み最中です。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人・御家族の状況・要望に対して柔軟に対応できる体制を取っている。できる限りは御家族の協力を得ながら行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長さんや民生委員さんの情報など協力を得ながら行っている。御家族のボランティアへの声掛けにて施設内の行事等参加してくれている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人や御家族が希望する病院を必要に応じて職員付き添いで受診している。定期的に往診医の診察がある。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、定期的に医師の往診や常勤看護師の連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	土・日以外は訪問看護師の訪問があり健康管理を行っている。何か、不安な事や心配な事があれば緊急時の対応もあり連携を図っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、面会や病院職員を通じ、状態の把握に努める。御家族とも連絡を取り合い情報の交換や相談の場を作っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には終末に対する対応方針について説明するが、状況に応じ段階を得る取り組みをしている。意思確認書が現在作成中である。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練等は行っていないが全体会議などで話し合い事故発生時適切な対応ができるように努めている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や通報訓練は全員参加で定期的に行っている。	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施し、設備の定期点検も行われている。また、夜間を想定した訓練を実施している。	ヒヤリ・ハットのデータ分析の活用や緊急時の近隣住民との協力体制について、さらに検討されることを期待します。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格尊重プライバシー保護を常に考え、言葉遣いや接する態度をきづけないように対応している。スタッフ間でも注意し合うように努めている。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止の内部研修を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけがないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が理解しやすい言葉やジェスチャー等を使いコミュニケーションを図っている。自己決定が難しい利用者には、選択できるような声掛けを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの生活リズムがありそれを把握できる限り御本人のペースを維持できるように支援する。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅時から通っていた理容室や自宅に近い理容室に職員付き添いで出掛けている。カット・パーマ等御本人の希望通りに行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態や能力に合わせて食事が楽しく大切な活動のひとつと考えて利用者の嗜好を反映したメニューも検討している。	利用者皆さんの食欲は旺盛でした。また、食事メニュー担当やおやつレク担当があり、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は、毎日チェックし記録する。情報として職員全員・その日のリーダーも確認することの意識づけを図っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染対策担当の職員がいて口腔ケアについても研修会に参加して全体会議にて周知徹底している。毎食後は口腔ケアを行っている。往診歯科医の訪問にて全利用者の口腔の状観察している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンを理解して可能な限りトイレへの誘導を行っている。オムツ使用の方もそれぞれ合ったものを使用	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その日の受け持ち職員やリーダーが2日間排便がないと訪問看護師に連絡して対処する。毎日トイレに坐らせたり歩行訓練や腹部マッサージしてなるべく自然の形で排泄できる環境を整えている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日が決まっているが、汚染時や御本人の希望にて適宜入浴を行っている。特に女性は出掛ける前の日に入浴を行っている。時間帯も御本人の好きな時間に行っている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、拒否の強い利用者にも対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人づつ睡眠パターンを把握している。自由な時間に休んでいただいたり、昼夜逆転しないように御本人の意思を考慮しながらレクレーションの参加を勧めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の薬カレンダーにセットを訪問看護師が行い中止の薬や新たに開始した薬を申し送りノートに記載する事や朝礼や終礼でも発表して職員に周知徹底する。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	閉じこもり防止や暖かい季節になれば、花見やドライブを積極的に行う。入所前から継続している、宗教や花の手入れ等を職員付き添いで行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族が週末に来て以前から通っていた喫茶店や公民館や美術館などを連れ出してくれることもある。自由に家族の面会ができ一緒に外出も出来る。施設にしても体調や天候により施設外に出掛けることを企画している。	行事担当が中心となって、一人ひとりの希望にそって、戸外に多く出かけられるように支援している。また、散歩や買い物、ドライブや外出行事(外食・温泉訪問・動物園見学等)の支援が行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る利用者は、本人に任せている。管理出来ない利用者は、御本人、御家族の了承の元施設で預かって管理している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御希望に沿って手紙の代筆や電話の対応している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに利用者との様子の写真を変えたり壁の飾りを変えている。利用者が住みやすく心地よい環境を考えている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、リビングや廊下の壁には、行事参加の写真の掲示等で本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時間に好きな場所で自由にくつろげるようにソファを多くしている。喫煙場所も確保してその場で喫煙している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自室で使っていた家具や壁飾りなど馴染みなものをもって来るように勧めている。家族も大切にしていたものや記念なものを飾ってくれて寂しくないような工夫をしている。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人の状態や体調に合わせての環境整備に努めている。施設内は手すり設置し入浴時にも滑り止めマットを使用して安全対策の努めている。その都度状態が変化し混乱が生じた場合職員との話し合いにて不安の軽減に努める。		



## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900672		
法人名	東光ヘルパーステーション有限公司		
事業所名	グループホーム みのり ユニット2		
所在地	旭川市永山3条18丁目1番5号		
自己評価作成日	平成22年8月	評価結果市町村受理日	平成22年11月5日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900672&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900672&amp;SCD=320</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年10月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>既存の病院をグループホームにしている。居室が2階という環境の中歩行に不安定であった利用者がふらつきなく階段昇降している。</p> <p>施設前が国道であり交通の往来が多いことも不安材料である。だが、出来る力や意欲を持ち続けるように見守りや声掛けを行っている。今後も地域活動にも参加して近隣の人達からも暖かく見守られるような施設作りを継続したい。</p> <p>朝・夕の足浴は、スキンシップの効果や1対1での関わりやコミュニケーションの場もあり、とても信頼関係が保つ機会になっている。不安なことや心配なことなど話せ、安眠効果や、体調の変化なども把握できる。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の開 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の想いを中心に共に生活を築いていく。」を基本理念とし、各職員の名札の裏に記し日頃から意識づけ出来るようにしている。また判断に困った場合、基本方針に振り返るよう必要に応じて促している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回、ホーム主催のお祭で、地域住民やご家族の方と交流の機会をもっている。又町内会加入で地域のお祭りやイベントに参加している。理美容室等、地域のお店を利用している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や入居相談時には、介護保険又その他の相談等で、役立つと思われる情報を提供している。又運営推進会議等でも、研修のお願い、支援相談があれば、いつでも連絡してほしいと伝えている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会やご家族のグループホームでの思いや要望や考えなどをスタッフ内で情報を共有して今後のサービス向上に活かしている		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明点や相談等、市の関係各課に問い合わせや、必要に応じ連携しながら利用者対応に当たるなどしている。又行政や地域包括支援センター主催の研修会にも参加し、運営推進会議にも参加していただいている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が出勤時(8:00)～勤務終了時(18:00)までは、開錠して何時でも出かけられる。玄関を出る際、スイッチで開閉するようになっている。身体拘束については全体会議に事例をあげて検討して再確認している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加するほか、虐待に関するニュースなど、朝礼や会議等で情報として伝えるなどして意識化を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会参加時は、朝礼・全体会議にて情報を伝達する。入所者に関わるがあれば、その都度担当職員と話し合い入所者が満足できるようまた安心できるように努める		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学や面談・説明は必ず行なっている。契約時には契約内容(料金・重度化した時の対応、医療連携体制について等)をしっかりと説明し、不明点等あった際は些細なことでも問い合わせいただけるよう必ずお伝えしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に「ご意見箱」を設置し、出来るだけ率直な意見を汲み取れるよう工夫している。また玄関ロビー内に外部の苦情受付窓口の連絡先を表示している。 意見があった場合はすぐに対応している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議や主任や役割に応じたスタッフとの話し合いを行っている。各委員(ヒヤリハット、感染予防、排泄・レク行事、新聞、口腔ケア、おやつレク等)スタッフ全員が各役割に関わり、担当委員ごとに相談や検討を行い、各委員担当者からの報告や推進に関する連携や共有化を定例会議で行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営会議を月1回行い、個々の役割や努力や実績を発表してもらい、状況の把握に努めている。向上心をもって働けるよう研修への参加や、自己啓発の内部研修を行っている。時間には就業できるよう勤務配慮をして仕事以外の時間を大切に促している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実際を把握するとともに先輩から指導を受ける体制になっているが、研修など積極的に参加するように促している。また研修後の発表や施設内研修も行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭川在宅を育む会、グループホーム協会に入会し、研修を積極的に促している。運営推進会議などで地域包括、民生委員、地域住民の方など情報、交流をすすめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学で、ご家族・関係機関から情報収集を行い、周囲からの情報と、ご本人の表情や動作・言葉から不安の解消に努めていく。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談・見学で困っていること、不安なこと聞き、一緒に考えていく。電話などの都度行い不安感を除去できるように努める。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にお話を伺い、必要に応じ、他の関係機関の紹介や必要と思われるサービス内容の説明またリスクについても説明を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の「尊厳」を尊重する事と「できること」への支援を柔軟に行っている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には様子をお伝えし、地方の方には手紙にて近況を伝えている。みのり便りも発行。必要に応じて、ご本人支援のご協力いただくなどしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご要望に応じて宗教集会の出席やご家族のお見舞い、を支援したり、古い知人宅などへ送迎したりしている。又利用者が昔から利用していた床屋に定期的に利用している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会や行事、ドライブその他の機会を活用しながら個々の性格を踏まえて対応している。又洗濯物やお絞りたたみ呼びかけあい数人で行なうなどしている。働いていると思っている入居者が見守りを要する入居者の話し相手になってくれていたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	みのり祭の案内を出したり、入退所の支援や電話相談を行なっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中の会話やしぐさや表情からご本人の思いや以降をくみ取れるように努めて少しでも反映できるよう心がけている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用されていたヘルパーやケアマネージャー、病院などの関係機関から情報を得る。ご家族からも情報を得るなどしている(センター方式活用)。職員間で情報を共有できるよう随時申し送りや朝礼・終礼で伝達している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝夕に足浴を行い、心身状態を把握する機会としている。担当スタッフ、訪問看護師、医師、ケアマネ、家族それぞれ視点の統合に努めケアを実施している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、ご本人・ご家族との日々の関わりの中から、思いや意見を聞き反映されるようにしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り(朝礼・終礼・申し送りファイル)など活用しながら、情報を共有し利用者さんの変化にも早急に対応出来る様に記録し、実践や介護計画への反映を図る。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々、その時のタイミングにあわせて対応できるようにしている。ご家族の協力もえながら行なっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で地域包括・町内会長さんや民生委員さんの地域資源の情報や協力を得ながら行なっている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・ご家族の希望をふまえ、訪問看護師と密に連携を取り、地域の医療機関や、利用者にとってなじみのある医療機関を利用するなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に訪問看護師と相談し、連携を図っている。医師の医療的な方針や指示は訪問看護師も朝のミーティングに参加し、訪看より具体的な説明をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には病院側と情報交換し、退院後の対応についても必ず相談の機会をもつようになっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、訪問看護師、介護スタッフで話し合いを行い終末期のケアに取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが全体会議などで話し合い、事故発生時適切な対応が出来るように努めている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施。特に消火設備の配置所や使用方法の確認、避難訓練時における危険箇所の把握などに重点を置いて取り組んでいる。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者中心のケアを基本に、プライバシーへの配慮を心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当スタッフにより、その人に合わせたケアを提供している。自己決定できる場面を出るだけ多く作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその時の思考に合わせたケアを提供している。またその人がとる行動から何を希望しているかを察知している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は利用者のなじみのお店や地域のお店を利用しているほか利用者の状態に合わせて、訪問美容・訪問理容も活用している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせたメニューや外食・おやつ作りレクレーション等を計画しながら行なっている。食事の準備(簡単な作業)や片付けは利用者に応じて職員と一緒にこなすなどしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時・11時・15時・16時に水分補給を行なっている。水分補給係りを決め水分補給を促している。拒否のある方などはゼリーやプリン、果物やアイス、味噌汁など形態にこだわらずに水分が摂れる様工夫をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。自立の度合いに合わせて介助等行なっている。定期的に歯科往診をお願いしている。口腔ケアの担当者をおいている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分、排泄の記録の記入、活用パターン、習慣の把握をしている。その内容を基に声かけ、誘導を行い、できるだけ失禁を防いでいる。紙パンツから布パンツへの変更も状況を見定めながらすすめている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物では牛乳などの乳製品で工夫したり、散歩や腹部マッサージ、ホットパックで暖めるなど工夫している。日頃から排便状況の把握(チェック表等)に努め、訪問看護師と協力して対応を図っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本パターンを決めているが、それ以外にも本人の希望や状況を優先し、入浴のタイミングを決めている。必要な方には毎日入ってもらっている。また、体調に応じて清拭での対応もしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室以外での一人になれる空間で過ごしたり、居間のソファでうたた寝など自由にそれぞれの方が時を過ごされている。1日2		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と一緒に薬局で出される説明書を保管し、必要時確認できるようにしている。新たに処方された薬や、特に用法上注意の必要なものについては申し送りにて情報を共有し、必要に応じて注意を促したりその後の経過を報告しあうなどしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出・外食・ドライブや散歩、折り紙、テレビ、新聞など楽しみとされている習慣の支援、洗濯物たたみ・干し、台所仕事や調理(下ごしらえ・盛り付け・味見)などの家事、畑仕事やゴミ捨て、日めくりカレンダーの管理など、役割を活かせるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物、野外行事(温泉・動物園・外食)などの外出支援をおこなっている又希望時には宗教やお寺参りも定期的に外出支援をおこなう。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者は、本人にまかせている。出来ない部分のみの介助のみになっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に自由に使える公衆電話を設置している。電話や手紙の出来ない部分を一緒にこなっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	正月飾りや七夕飾り、雛人形など季節に応じた装飾等配置している。 自由に座ったり、話したりできるスペースを作っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階玄関ロビーや2階ホールにソファ等配置し、利用いただいている。喫煙場所も確保してその場で喫煙している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッド、仏壇といった使い慣れた家具等持ち込んでもらったり、ご家族の写真や飾りなど、お気に入りのものを壁に貼ったりしていただいている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の体調に合わせての環境整備に努めている。その都度状態が変化し混乱が生じた場合職員との話し合いにて不安の軽減に努める。		



### 目標達成計画

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	高齢に伴い認知症だけではなく色々合併症も出現してくる。重症化(ターミナル期)においての家族への説明等や取り決め事項ができていない。	入所時に説明及び明確な書類作成が必要である。	早急に文章作成する。 今後予測されることもあるために取り組む。	12ヶ月
2	8	権利擁護に関する制度を学ぶ機会が少ないため、全職員が制度の理解をしていない。	全職員が制度を理解する	権利擁護に関する外部研修や内部研修を計画的に行い、知識をふかめる	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。